



写真等無断転載禁止

子どもたちの未来への「市民版・生物多様性ちば市戦略」づくり

みんなで生物多様性ちば市戦略をつくる会（仮称）栗原裕治・小西由希子・田中正彦・佐藤聰子・内田修治・つやまあきひこ・横田耕明・中村俊彦・伊勢戸将司・高橋久美子

地球温暖化対策と生物多様性保全の一体的取組を目指し、2008年3月、千葉県は、白紙の段階から県民と専門家、行政とが連携してつくりあげた日本初の地域戦略「生物多様性ちば県戦略：生命（いのち）のにぎわいとつながりを子どもたちの未来へ」を策定し、千葉県生物多様性センターを設置しました。それから四半世紀の今年2023年は、世界の生物多様性の大きな節目の年でもあり、私たちは、今年3月に千葉市への提案を目指し、みんなで「市民版・生物多様性ちば市戦略」づくりを進めています。

このような世界情勢の変化を受け、日本の生物多様性国家戦略は改訂作業が進められている。国家戦略の原案でも「生物多様性の損失を2030年までにゼロにし回復軌道に乗せる」が掲げられています。また、2021年のG7サミットで決議され、生物多様性COP15でも目標とされた、生物多様性保全に効果的な自然保全エリア、すなわちOECM (Other Effective area based Conservation Measures) を日本でも取り入れ、従来の保護地域とあわせて2030年までに国土の30パーセント以上の面積をカバーし保全していく「OECM 30by30」という具体的な行動目標が示されています。これには、自然保護を目的とした区域のみならず、里山里海や農林漁業区域、公園・緑地や文化史跡等で高い生物多様性を保持してきた区域を、持続的な資源利用をしつつ保全していく取組です。

世界の生物多様性対策の大きな節目の2023年

昨年2022年の11月にエジプトで「気候変動枠組条約締約国会議 (COP27)」が開催されました。12月には「生物多様性条約締約国会議 (COP15)」がカナダのモントリオールで開催され、今後の地球レベルの生物多様性の保全再生と持続的利用の対策について「昆明・モントリオール目標」が採択されました。この主な内容は以下の通りです。

- ・ 全ての地域で2030年までに生物多様性の損失をゼロに近づける。
- ・ 生物多様性が劣化・衰退した地域について、2030年までに少なくとも30%を復元対策する。
- ・ 陸域から水域まで、2030年までに、少なくとも30%を生物多様性の保全区域とする (OECM 30by30)。
- ・ 絶滅危惧種の保護・回復に着手し、外来種の侵入をおさえ、野生生物と人との関係を改善する。
- ・ 遺伝子資源の公正公平な配分と、遺伝子組替えの適正な管理・利用の能力を全ての国が持つ。
- ・ プラスチック汚染を減らし、過剰な肥料と農業リスクを少なくとも2030年までに半減する。
- ・ 食品ロスを半減させ廃棄物の減少のための法規制や情報提供を進める。
- ・ 気候変動影響を自然に根ざした解決策で最小化する (TCFD)。
- ・ 企業や金融機関の活動での生物多様性への影響を評価し情報開示を支援する (TNFD)。
- ・ 保全資金を2030年までに負の補助金をなくし、保全のための資金を年間2千億ドルまで増やす
- ・ 情報や政策決定に際し、住民や女性、子ども、若者たちが知り、参加する機会を確保する。

さらに、生物多様性の損失ゼロを後押しする世界の金融・経済会の動きとして、2021年に発足したTNFD: Taskforce on Nature-related Financial Disclosure (自然関連財務情報開示タスクフォース)があり、生物多様性COP15でもその支援が可決されました。これは、各企業活動における生物多様性との関係やそれへの影響・リスク等を見極め評価し情報開示するものであり日本でも準備が進められています。したがって「生物多様性の損失ゼロ」と連動するTNFDは、企業や金融活動において、すでに実施されているTCFD: Taskforce on Climate-related Financial Disclosures (気候関連財務情報開示タスクフォース)と一体となって取組むべき課題としてプライム市場上場の条件としても、今後は日本の金融・企業に広がっていくと予想されています。企業・金融機関にとっては、自然保全エリアとその保全活動への支援が、世界的評価のための必要不可欠な要件になったと言えます。

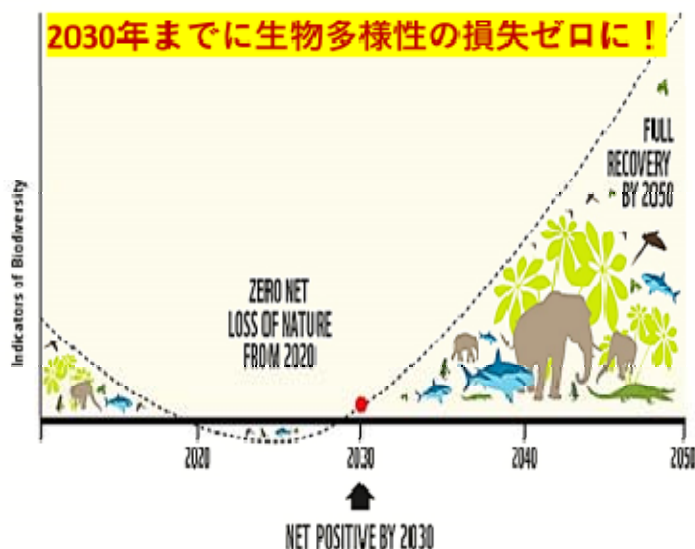
第3の柱は、COP15においても目標となった、生物多様性の保全利用に際しては、地域住民や子どもたち、女性の意見をしっかりと聞き、情報共有して政策決定に反映させる取組です。

2021年7月に皆さんと共に「子どもたちの生命の学びとしてアメリカザリガニは重要な生物」として、環境省に意見書を提出しました。今年1月、アメリカ

ザリガニの特定外来種の指定に際しては、政令により特別にその「捕獲」「飼育」はだれもが可能となりました。もちろん野外への「放出」は禁止ですが、別の飼育者へのバトンタッチは可能です。少子化対策が日本の政治の最重要事項となるなか、子どもが豊かに育つための生物・生命との体験の重要性をさ

らに浸透させていかなければならないとおもいます。

Global Goal for Nature: Nature Positive by 2030



引用: <https://www.wwf.or.jp/activities/lib/5119.html>

生物多様性の損失ゼロへの3本柱

自然保全エリア (OECM) 指定
2030年までに地域の30%以上

里山里海や農林水産業地、公園・緑地、史跡、ゴルフ場等での保全

企業・金融活動の生物多様性影響の財務情報開示 (TNFD)

企業や金融機関の活動における自然・生物多様性関連情報の開示

みんなの意見を反映させた取組

子どもや女性から、原料調達地の住民まで、生物多様性の情報や政策参加の確保

生物多様性対策のトップランナー、千葉市への期待

千葉市は、1970-80年代の日本の高度経済成長により人口増加と開発行為により大きな発展を遂げました。しかし、これは同時に、自然環境及び生物多様性を衰退させ、公害発生の歴史をうみました。

この状況をふまえ千葉市は、1992年の地質や水環境から動植物、さらに都市計画に至る多くの専門家が参加した「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査」を開始し、4年間の年月をかけ1996年にその報告書を完成させました。この事業は、1995年の「千葉市環境基本計画」策定の基盤になるとともに、1999年「千葉市野生動植物の保全施策指針」、また2003年の「谷津田の自然の保全施策指針」、さらに2004年「千葉市の保護上重要な野生生物（レッドリスト）」の策定へとつながり、その取組は日本の地域レベルでの生物多様性保全の先駆けとなりました。

千葉市は、1995年に「千葉市環境基本計画」を策定し、千葉市では、河川や海域、地下水の保全・再生を総合的に推進するための「千葉市水環境保全計画」を策定し、さらに、2014（平成26）年7月の「水循環基本法」の施行等を受け、2017（平成29）年4月「千葉市水環境保全計画（改定版）：生命（いのち）はぐくむ水の環を未来へ」としました。しかし、この計画の策定から10年が経過するなか、新たに、健全な水源の保全や市民の水環境に関する認知度など、さまざまな課題が見られるようになりました。

このような自然環境や社会の変化にあわせ、2022

年3月、目指すべき環境都市の姿を「自然や資源を大切に、みんなで作る持続可能なまち・千葉市」として新たな環境基本計画を策定、また2022年9月、千葉市の100年先を見据えた今後の新たな政策を示す「千葉市基本計画（期間：2023～2032年度）」を策定、千葉市の特性である「自然」「利便性」「拠点性」を活かした「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」の実現を目指す計画を定めました。

まさに、千葉市の「都市と自然が織りなす」「みんなで作る持続可能なまち」のビジョンは、世界の「生物多様性の損失ゼロ」への先進的取組として期待されます。

なぜ今、「市民版・生物多様性ちば市戦略」づくりか！

日本で初の地域戦略「生物多様性ちば県戦略」の策定は、みんなで作った戦略でしたが、その策定で千葉市民は大きな核となりました。したがって、生物多様性の保全再生現場にかかわる千葉市民は、みんなで作る市民参加を市政に掲げる千葉市の生物多様性戦略づくりを心待ちにしていました。しかし、生物多様性地域戦略は策定されず、全国政令指定都市では唯一、その基本法における「努力義務」が果たされていない都市になっています。

千葉市は、2021年3月、生物多様性地域戦略を兼ねた水環境保全計画の改定作業に着手しました。しかし、そのアンケートや説明会、ワークショップ等

の広報は、全て「水環境保全計画改定のため」のものでした。また、その原案作成を担当する環境審議会の自然環境保全専門委員会はわずか5名であり、生物多様性現場で保全再生に長年たずさわってきた市民の委員参加はかなわず。さらに、環境審議会から市長への答申時期については、約3ヶ月も前倒しの2022年12月になり、生物多様性COP15の結果や新たな国家戦略、また市民からのパブコメ結果をふまえた議論・検討なしで審議は終了となりました。

市の方針「みんなで作る持続可能なまち」を期待し、千葉市の生物多様性の現場にかかわってきた市民にとって、答申された「千葉市水環境・生物多様性保全計画（仮称）」は、水環境の保全活用にかかわるデータ及び取組の充実ぶりに比べ、生物多様性については、市域の現状データはきわめて少なく、また、なんとか盛り込まれた生物多様性の重要な取

組も、多くは「検討する。」であり、寄せられた市民意見の反映は限られたものとなりました。これは、新庁舎への引越やそのための財政状況の影響とおもわれますが、生物多様性にかかわる世界の動向をふまえ、大きな節目となる2023年、「みんなが輝く都市と自然が織りなす・千葉市」のスタートには、市民が、市民のため、そして子どもたちの未来のためにつくる生物多様性戦略が必要であるとおもいます。このなかには、分散している自然にかかわる市組織を統合や、市域の自然や生物多様性の情報及び市民の保全活動の拠点整備の提案も盛り込まれる予定です。

皆様のご参加とご支援をお願いします。会の事務局（伊勢戸将司 iseto@me.com または 高橋久美子 eldenaya1984@gmail.com）にて、ご連絡をお待ちしています。

お米にまつわるミャンマーの話 第7回 ～ミャンマー・スパゲティー「ナンジートウツ」と メイドさん一家との思い出～ ①

千葉市若葉区 岩沢 久美子

美味しいミャンマー料理はたくさんありますが、今一番食べたいと思う料理は、「ナンジートウツ」と呼ばれる緬料理です。「ナンジー」は太いライスヌードル、「トウツ」はサラダを意味して、直訳するとライスヌードル・サラダになります。極太のライスヌードルの上に小さめに刻んだ鶏肉のヒン（たっぷりの油で調理したミャンマー・カレー）、炒ったひよこ豆を粉末にしたもの、固ゆで卵、スライスオニオン、揚げ麺、油揚げ、とうがらし、ライム、コリアンダーなどが乗っていて、ライムを絞って具材とヒンの油、ひよこ豆パウダーを、名前の通りサラダのように麺に絡めるようによく混ぜていただきます。ヒンの香辛料のおかげで、まぜると真っ白な麺が色鮮やかなオレンジ色になり、ひよこ豆パウダーが油によ

く絡んでとても香ばしい香りがして、とてもおいしいです。オレンジ色のオイルが絡んだ太麺がナポリタン・スパゲティーのようにも見えてつのが大切な家族、メイドさん一家でご馳走になったものでした。

我が家にはナニー（ベビーシッター）のパオパオの他にメイドさんを雇っていて、お掃除や洗濯、お料理などを手伝ってくれていました。元々は、彼女の娘さんが働いていたのですが、訳あって別の仕事をすることとなり、後任を探していたところ、代わりにお母さんの方が我が家に来てくれたのでした。メイドさんの名前はノープリーと言いますが、ミャンマーの年上の女性の敬称である「ドー」を頭つけて、皆からドー・プリーと呼ばれていました。

（つづく）

新浜の話60 ～ひしめくふとんわた～

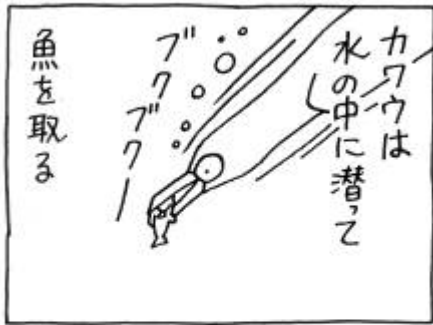
「水につかってね、ちぎれないように、そろそろと進むんですよ。体ごとじわじわ引いて行って、岸に上げる時には水気をできるだけしぼるんです」当時のボランティア、竹内暉男さんのお言葉。はて、何のことでしょう。

「みなと池」の水源は、行徳の雑排水が海へとポンプ排水される前に溜めておかれる湊排水機場の遊水地（どぶ池）です。今は雑排水の大部分が処理

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

場に回るので、どぶ池の水質もある程度は良くなったようですが、30年近く昔の当時は、水位が下がって泥底が見えるようになると、周辺の住宅で臭気が問題になりました。養魚用水車を回して酸素を吹き込んだ結果として、じわじわと水質が改善されてきたのは丸浜川と同様ですが、この水を直接淡水源として利用するのは相当不安でした。

スロマン 作: つやま あきこ



つやまあきこウェブサイト
21世紀絵コロッジ~ <http://www.21eco.net>

浄化用に用意した5段の棚田にホテイアオイを入れたことがあります。ホテイアオイは夢のように美しい薄紫色の花をつけます。江戸川放水路対岸の清掃工場前の真間川河口部に大繁殖していて、そこから運びました。ホテイアオイは1週間で倍になり、どんどん育ちます。9月のはじめには、どぶ池の水がまず入る1段目の池ではホテイアオイは巨大化して1m近くの草丈に育ち、ぎっしりと水面を埋めました。2段目になると草丈は60cm、3段目は40cm、4段目は20cm、5段目は15cmと、水中のリンや窒素の量を示す生きた棒グラフのような様子がとてもおもしろかったものです。

1994年の夏、達夫さんの運転で、清水大悟さんもいっしょに、館山まで出かけたことがあります。館山野鳥の森からの依頼で、保護された鳥がハヤブサかどうか確認に行ったのですが、館山野鳥の森の見学や、城山公園にできていたサギのコロニーと港の生け簀とのサギの群れの往復、岸壁の海中を泳ぐ美しいスズメダイやチョウチョウウオの類、光るクシクラゲ、近くのため池（堂谷堰；どうやつのせき）に文字通り「ひしめいて」いたヒシをみなと池用に少々失敬したり、偶然見つけたミクリも同じく、と、とても楽しい遠征でした。みなと池には、このほかにも鈴木晃夫さんが若手を何人か引き連れて、沼津の浮島沼などからカエルや各種の水生植物を採取して入れています。

あれこれ努力はしたものの、みなと池の水質は安心できるものではありませんでした。トンボもカエルもドジョウも住みついてくれましたが、水入れ後2年目を迎える1995年夏には池全体に緑藻類のアミドロが大繁殖して、水面をサギが歩くことができるほど。これを水中から引き出そうとして、ボランティアの方々やアルバイトの学生さんたちががんばった実感が冒頭です。

岸に上げたアミドロは乾くとまっ白になって、ほこほこして、かすかに干草のようなよい匂いがします。見たところはまるで綿のよう。何かに使えないものかと思いました。水中にまだまだリンや窒素などの栄養分がたっぷり残っていて、それを使ってしげりにしげったもの。要は、綿の繊維が水中いっぱいひろがったようなもの。

ホテイアオイは水に浮いているので、ただひっぱるだけで水から上げることができます。ホテイアオイという姿になったリンや窒素など、水中の栄養塩類を水から出すことができるわけです。同じように水面をおおうヒシは、忍者の撒きビシのように鋭いトゲつきのひし形の種子が水底で発芽して太い茎がのび、水面に葉がひろがります。これを水から出すためには、ロープのような太い茎から引き出さなくてはなりません。水中一面にひろがったふとん綿のようなアミドロと、綱引きのようなヒシと、どちらが出すのに楽か。何にせよ、いやはやたいへん、というみなと池でした。

【発送お手伝いのお願い】 ニュースレター2023年 3月号（第307号）の発送を 3月10日（金）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒 _____

ふりがな _____ Tel _____

氏名 _____

E-mail _____ FAX _____

編集後記：千葉県令和5年度の予算案が発表された。子育て施策として「自然体験活動を通じて、子どもの主体性や創造性等を育む、「自然保育」に取り組む団体の活動を支援する認証制度を創設」とのこと。予算額はさほど多くはないが、自然体験に財政的な支援が認められたことは大きなことだと思う。 mud-skipper ♀

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。
NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。（カット:こまちだ たまお）

<小山町での活動>

☆ 1 月期の活動 報告：たんぽぽ

1 月に入ると田んぼの氷も厚みを増し畦も凍る様になりました。イノシシに荒らされた跡は相変わらずですが、畦が固いせいか、新たな傷は現れなくなりました。日が昇って土の緩む時間帯を狙ってコツコツと修理に勤しむ季節です。

☆ 第 211 回 小山町 Y P P 「畦の整備 2」 2023 年 1 月 15 日（日） 報告：赤シャツ親父

土曜日は雨天であったため 1 日ずらし日曜の実施となりました。前 2 日程、比較的暖かな日でしたが、年末から連日冷え込んでいたため、一部の田んぼの氷は人が乗れる程厚く発達しておりました。

この日最初は小学校田んぼ周囲の水路の整備行いました。鍬を入れると度々、赤味を増し、丸々としたニホンアカガエルが出現し、産卵が近づいている予感がありました。

昼前からは最も氷の厚い大ホテル田んぼの畦と村田川暗渠へ通じる水路の整備を実施しました。まずは厚い氷を叩き割る作業を敢行！これは結構快感！続いて全面的に崩された畦の補修とともにしっかり土あげし、畦の基礎作りの準備を進めました。まだまだ先は長い、あと 2 ヶ月程で完成できるよう、一層気合い入れて参ります。

参加者 2 名（大人 2 名）

【谷津田・季節のたより】 2023 年 1 月

<下大和田町> 報告：田村光範

今年は記録的に雨が降らない日が続き、里山もカサカサに乾燥していました。田んぼの畔は朝方に霜柱が立ち、昼には溶けてを繰り返しているの、意外と湿潤状態になっています。2 月に入るとアカガエルの産卵が始まります。畔の補修して、水が貯まるように準備します。

<小 山 町> 報告：たんぽぽ

1/1 田んぼ、氷に覆われる

1/2 コジュケイ群れで行進

1/9 夕方の小山、トラツグミの声響く

1/19 朝、鮮やかな赤のマスク、とても尾の長いヤマドリと遭遇、田んぼではタシギらしき鳥。昼、低空飛行してすぐ真上を猛禽(オオタカ?)飛ぶ

【イベントのお知らせ】 主 催：NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・ 森と水辺の手入れ 「YHP 下大和田 畑づくり②」

日 時：2023 年 2 月 19 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・ 第 8 回 森の手入れ 「YHP 下大和田 畑づくり③」

日 時：2023 年 2 月 26 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・ 第 278 回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日 時：2023 年 3 月 5 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：ニホンアカガエルの卵塊調査を中心に、春を迎える谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴（通常の）、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

参加費：100 円

<小山町谷津田>

・ 第 212 回 小山町 Y P P 「畦の整備 3」

来期に向けた田んぼの整備を行います。今季はイノシシによる被害が大きく応援頂けると助かります。

日 時：2023 年 2 月 25 日（土） 11 時～ ☆凍結しているため時間を遅らせます。

場 所：りんどう広場

参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail; tomizo_i@nifty.com) までご連絡下さい。

